

七条中学校だより5月8号

京都市立七条中学校

令和8年5月15日

発行：校長 林 秀雄

いよいよ校外学習です！

何よりも安全に

いよいよ来週は、1年生の野外炊飯、2年生の職場体験、3年生の修学旅行と、それぞれが学校を離れ、自然や社会の中で学ぶ機会を迎えます。それぞれ目的や内容は異なりますが、どの活動も教室だけでは得ることのできない、貴重で深い学びの場となります。

校外での活動は、普段皆さんが過ごしている教室や体育館とは全く異なる環境で行われます。そこでは、場所ごとに守るべきルールやマナーがあり、周囲には地域の方々や一般の利用者もいます。また、自然環境や交通機関など、学校内にはない危険も存在します。こうした中で安心して活動するためには、ただ「楽しい」だけでなく、「安全に過ごす」という意識をしっかりと持つことが欠かせません。

そのために大切なのは、「正しい情報をもとに、冷静に判断する力」です。事前に学んだ約束や注意事項をしっかりと理解し、その場の状況に応じて自分で考えて行動することが求められます。周りの雰囲気や流れに流されたり、「これくらいなら大丈夫だろう」と軽く考えたりすることが、思わぬ事故やトラブルにつながることもあります。

1年生の皆さんは、自然の中での活動を通して、仲間と協力しながら安全に行動することを学びます。慣れない環境だからこそ、声をかけ合い、互いに気を配ることが大切です。

2年生の皆さんは、職場体験において「社会の一員」として見られます。あいさつや時間を守ること、責任ある行動はもちろん、相手の立場を考えて行動する姿勢が求められます。

3年生の皆さんは、修学旅行という集団行動の中で、一人ひとりの判断が全体に影響を与えます。自分の行動が仲間全体にどのように関わるのかを考え、節度ある行動を心がけてください。

すべての学年に共通して言えることは、「安全に活動を終えること」が何よりも大切だということです。そのため、先生の指示をしっかりと聞き、事前に確認した決まりを守り、自分の行動に責任をもつことが必要です。一人ひとりが意識を高く持つことで、安心して活動できる環境がつけられます。そしてその積み重ねが、楽しく充実した学びにつながります。無事に活動を終え、成長した姿で帰ってくることを心から期待しています。

校外学習を通じた成長

校外学習では、「自分から動く力」と「自分で選ぶ力」が、これまで以上に試されます。普段の学校生活では、先生からの指示や決められた流れの中で行動することが多いかもしれませんが、しかし校外では、状況に応じて自分で考え、「今、何をすべきか」を判断する場面が数多く訪れます。

例えば、周りの様子を見て「今は声をかけるべきか」「先に行動した方がよいか」といった判断をすることや、どの言葉を選べば相手に伝わるのかを考えることも、すべて大切な学びです。こうした一つひとつの積み重ねが、主体的に行動する力へとつながっていきます。

また、校外では必ずしも明確な正解があるとは限りません。迷う場面や、どうすればよいか考え込む場面もあるでしょう。そんなときに大切なのは、「どんな自分でありたいか」という視点です。周りの人を大切にしている自分なのか、約束やルールを守る自分なのか、それとも困難に向き合ってやり抜こうとする自分なのか。その選択はすべて、自分自身に委ねられています。

例えば、職場体験で任された仕事が最初はうまくいかず、思うように進まないことがあります。そのときにそのままにするのではなく、「もう一度教えてください」と自分から声をかけたり、「こうしたらよいのではないかと方法を工夫したりすることで、少しずつできることが増えていきます。そして最後には、「自分にもできた」という自信につながります。

さらに、人間関係の場面でも同じようなことが起こります。グループで意見が合わず、話し合いが止まってしまうこともあるでしょう。そのようなときに、自分の考えだけを押し通すのではなく、「どうすればみんなが納得できるか」を考え、相手の意見にも耳を傾けることで、新しい解決策が見えてくる場合があります。その積み重ねが、よりよい人間関係や信頼関係を築くことにつながっていきます。

また、校外では友達だけでなく、地域の方々や職場の方々など、さまざまな人との関わりが生まれます。その中で、相手の立場を理解し、思いやりをもって行動する経験は、教室の中ではなかなか得られない貴重なものです。丁寧なあいさつや誠実な態度は、必ず相手に伝わり、温かい形で返ってきます。

このように、自分で考えて行動し、自分で選択しながら人と関わる経験は、皆さんにとって大きな財産となります。成功した経験だけでなく、うまくいかなかった経験も含めて、すべてが成長の糧となります。

校外学習は、単に何かが「できるようになる」場ではありません。「どのように考え、どのように行動する人になるのか」を自分自身に問いかける機会です。この経験を通して、一回り成長した自分に出会えることを期待しています。

「ありがとう」の一言に心あたたまる朝②

今朝も、心がふっとあたたかくなる出来事がありました。

私は毎朝、生徒の皆さんが気持ちよく一日を始められるようにと、登校前に学校のエントランスを掃除しています。早い生徒は8時前には登校してきますので、その時間帯は、登校してくる皆さんに掃除しながらあいさつを交わしています。今朝も、いつものように掃除をしていると、数名の生徒が登校してきて、「おはようございます」と元気よくあいさつをしてくれました。ここまでは、いつもの朝と変わらない、当たり前前の光景です。しかし、そのあと、その中の一人の生徒が少し小さな声で、「ありがとうございます」と声をかけてくれました。

私は、誰かに感謝してもらうために掃除をしているわけではありません。皆さんが気持ちよく学校生活を送れるように、という思いで続けていることです。けれども、その生徒が、私の姿を見て、掃除していることに気づき、そして「ありがとう」という言葉で気持ちを伝えてくれたことに、私は素直に嬉しさがこみ上げてきました。

同時に、とても大切なことに改めて気づかされました。それは、自分の身の回りには、気づかないところで、誰かがみんなのために動いてくれている場面がたくさんあるということです。そして、そのことに気づき、感謝する気持ちを持ち、その思いを言葉にして伝えることの尊さです。

「ありがとう」という一言は、決して大きな行動ではありません。しかし、その言葉の中には、気づく心や相手を思う優しさが込められています。そして、その一言が、言われた人の心をあたたかくし、また誰かのために頑張ろうという気持ちにつながっていきます。

今日の朝、その生徒が見せてくれた「心」は、七条中学校の大切な宝だと感じました。このように、周りの人の行いや思いに気づき、感謝の気持ちを持ち、そしてそれを言葉にして伝えられる生徒が、これからさらに増えていくことを心から願っています。

これからも、そんな素敵な姿にたくさん出会えることを楽しみにしています。